

2024年1月8日(月)

キリスト兄弟団近畿教区新年聖会

午前 テモテ第二2章1節、コリントⅡ12章7-10節

「あふれる恵みに気付かされる幸い」

テモテⅡ2:1 ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

2:2 多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。

12:7 その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、私は肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

12:8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

12:10 ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

## パウロの二つの誤解・・・

- ①「実は恵みは十分に与えられていたのに不十分だと思っていたということ」
- ②「実は弱さの中にこそ力が現れる、弱いときにこそ強いのに、『弱さは邪魔だ』と思っていた、ということ」

①「実は恵みは十分に与えられていたのに  
不十分だと思っていたということ」

マタイ18:21 そのとき、ペテロがみもとに  
来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を  
犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回  
まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「わたしは七回  
までとは言いません。七回を七十倍するま  
でです。

18:23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。

18:25 彼は返済することができなかったので、その主君は彼に、自分自身も妻子も持っている物もすべて売って返済するように命じた。



18:26 それで、家来はひれ伏して主君を拝し、『もう少し待ってください。そうすればすべてお返しします』と言った。

18:27 家来の主君はかわいそうに思って彼を赦し、負債を免除してやった。

1万タラントっていくら？ 1万円？

1タラントは6千デナリ

1デナリが一日分の給料:約1万円

1万タラントっていくら？ 1万円？

1タラントは6千デナリ

1デナリが一日分の給料:約1万円

⇒1タラントとは6000日分の給料、  
6,000万円。

一年に300日働いたら、20年分の給料

1タラントではなく1万タラント  
20年分ではなく、



1タラントではなく1万タラント  
20年分ではなく、20万年分の給料

6,000万円×1万=6,000億円・・・



# ダラスウィラード『心の刷新を求めて:キリストにある霊的形成の理解と実践』より

(教会で複数の牧師のスキャンダルが教会で繰り返された事例を書いた後、…)

「しかし性だけが問題なのではありません。虚栄、自己中心、敵意、恐れ、無関心、そして露骨な意地悪さが、キリスト者と自称する人々の間に存在しています。

『標準的な』キリスト者のグループの中に、真実の清さ、謙遜、自我に死ぬこと、怒りからの解放などを、あって当然のものともみなすことがもはやできないのです。まれに、それらの徳を体現する個人がいても、グループの中で浮いた存在として目立つだけです。

『人を何よりも確実に破滅に向かわせるのは、自分自身に従うことだ』とジャン・カルヴァンは言いました。しかし、自己に従うことは、ほとんどの人にとって唯一納得のいく道であるようです。



『私たちは、あまりに無分別に自己愛へと突進しているのです、自分を崇めたり、自分と比較し他人を蔑んだりするのは当然のことだと誰しも思っている。』

何と鋭い洞察でしょうか。

ディートリッヒ・ボンヘッファーの次の言葉は的を射ています。『人と人との主要な関係は与えることだが、罪の中には、ただ要求するばかりになっている。誰もが完全に孤立して生きることを自ら選んでいる。

皆で同じ神のいのちを生きる代わりに、自分だけの人生を生きている。』

当然でしょう。各人が自分にとっての神なのですから。

実際、他人を傷つけて平気でいられる人は、申し訳ないと思っている人とまったく違う種類の人間です。深い悔恨、後悔の苦悩のない者に、真の変化はほとんど望めません。

今日、キリスト者の告白と呼ばれるものの多くは、その人の状態や行ったことについての悲しみや悔恨を、まったくと言えるほど含んでいません。自分が失われていることや、心と身体と魂の中にある根源的な悪(根本悪)への気づきがほとんどありません。・・・自分はどうしようもなく間違っていて、自分を変えることも、その悪がもたらす結果から逃れることも、自分の力では到底できないと気づいている人は、今日ほとんどいません。

ヨハネ I 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

\*



マタイ18:28 ところが、その家来が出て行くと、自分に百デナリの借りがある仲間の一人に出会った。彼はその人を捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。

18:29 彼の仲間はひれ伏して、『もう少し待ってください。そうすればお返しします』と嘆願した。

18:30 しかし彼は承知せず、その人を引いて行って、負債を返すまで牢に放り込んだ。

18:31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て非常に心を痛め、行って一部始終を主君に話した。

18:32 そこで主君は彼を呼びつけて言った。『悪い家来だ。おまえが私に懇願したから、私はおまえの負債をすべて免除してやったのだ。』

18:33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも自分の仲間をあわれんでやるべきではなかったのか。』

18:34 こうして、主君は怒って、負債をすべて返すまで彼を獄吏たちに引き渡した。

18:35 あなたがたもそれぞれ自分の兄弟を心から赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに、このようになさるのです。」

＊





ルカ17:3 あなたがたは、自分自身に気をつけなさい。兄弟が罪を犯したなら、戒めなさい。そして悔い改めるなら、赦しなさい。

17:4 一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回あなたのところに来て『悔い改めます』と言うなら、赦しなさい。」

相手が謝るところか、自分が傷つけたことに対して無頓着で、悪いことをしたという自覚がない・・・逆に、被害者を破滅させたい思いや殺意をなおあらわにする・・・そして、自分が相手を傷つける罪を犯したことを否定し、謝罪を拒んでいるのに、どうして赦せるのでしょうか。

では、どうしたらいいのでしょうか。

## 1) 怒りと悲しみをふさわしい方法で表わす

被害者が怒りを表わせるようにし、加害者との間に境界線を引いて、身体的・感情的・霊的に守られるよう手助けします。その上で、怒りを表現する手助けをします。それによって被害者の憎しみ、罪悪感、羞恥心、自分に対する怒りを解放させます。

## 2)手放す

被害者は正義が行われる欲求と苦しみを手放し、神の手にゆだねなくてはなりません。神は正しい審判者であり、背いた罪人を無実にはしないからです。

手放し、委ねるという行為は「赦し」ではありませんが、それによって被害者は重荷から解放されます。神が裁いてくださるよう、苦しみを悩んでいる一件を御手にゆだねたからです。

ペテロ第一2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。

テモテ第二4:14 銅細工人のアレクサンドロが私をひどく苦しめました。その行いに応じて、主が彼に報いられます。



## パウロの二つの誤解・・・

- ①「実は恵みは十分に与えられていたのに不十分だと思っていたということ」
- ②「実は弱さの中にこそ力が現れる、弱いときにこそ強いのに、『弱さは邪魔だ』と思っていた、ということ」

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

12:10 ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。



テモテⅡ2:1

ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

